シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT1305S		
科目名	セキュリティ		
担当教員	河本　志朗		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木５		
講義室	オンライン	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 C1倫理的思考・社会認識－10% E1学識と専門技能－50% G1状況把握－10% I1理解・分析と読解－30%		
教員の実務経験	担当教員は、山口県警察に21年間勤務し、その間3年間外務省に出向して在外公館の警備対策官として公館のセキュリティを担当し、1997年からは民間研究機関においてテロや犯罪などに対するセキュリティ対策を研究し、2011年からは文科省科学技術審議会専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としてセキュリティを含む安全安心科学技術に関する重要課題について検討しました。また、「テロ対策東京パートナーシップ」や「海上・臨海部テロ対策協議会」の取組にも協力してきました。授業においいては、セキュリティとセーフティの違い、セキュリティに活用されるテクノロジー開発の意義、大規模イベントに向けたテロ対策テロ対策の取組などについて、これらの実務経験を踏まえて講義を行います。（第2回・第3回・第13回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ３　発展期　～　４　定着期		
科目概要・キーワード	国民の生命、身体、財産を守る「安全」には、輸送機関の運行、原子力発電所の運転、工業製品の製造と提供、医療活動などリスクを伴う能動的な行為において、人為的ミス、機器の故障、危険防止システムの欠陥などにより生じる危害から守る「セーフティ」とテロや犯罪など悪意を持った人間による殺傷、破壊、妨害などにより生じる危害から守る「セキュリティ」があります。技術の進展に伴ってリスクと脆弱性が高まり、近年、テロや社会に不満を訴える犯罪が多発する中でセキュリティの重要性は高まっています。セキュリティとセーフティの違いを理解し、セキュリティ活動の現状を概観するとともに、その課題を考察します。以上のよう		

	に、セキュリティに関する総合的な理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合がありま す。 ■キーワード： セキュリティ、セーフティ、セキュリティ文化、脆弱性評価
授業の趣旨	■副題 セキュリティの基本的な考え方、脅威に応じたセキュリティ対策の在り方、テクノロジーの活用方法などを学び、犯罪やテロなどから社会、組織、家族、自分を守ることのできる社会人を目指しましょう。 ■授業の目的 国民の生命、身体、財産を守る「安全」には、リスクを伴う能動的な行為における人為的ミス、機器の故障、危険防止システムの欠陥などによる危害から守る「セーフティ」と悪意を持った人間による殺傷、破壊、妨害などによる危害から守る「セキュリティ」とい概念があることを理解し、セキュリティを脅かす脅威の種類と特性、セキュリティの取組について基礎的な知識を習得し、そうした基礎的知識に基づいて社会の様々な分野におけるセキュリティ上の課題を分析・抽出して、今後のセキュリティの在り方を考察する能力を身につけることを目的とします。 ■授業のポイント セキュリティは、悪意を持った者が安全確保のための取組の裏をかいて危害を発生させることをどう防ぐかという取組であり、それは決められた手順やルールを着実に守ることにより安全の確保を目指すことのできるセーフティと重なる部分とまったく異なる部分があります。そうしたセキュリティの特性を踏まえながら、さまざまな分野におけるセキュリティの取組の現状と課題について学ぶことにより、効果的なセキュリティはどうあるべきかを考えていきま す。
総合到達目標	■ 「セーフティ」とは異なる悪意を持った人間による殺傷、破壊、妨害などによる危害から守る「セキュリティ」の概念について説明できるようになる。 ・人の悪意により引き起こされる危害にはどのようなものがあるか事例を挙げ、その防止方法について説明することができる。（第2回、第4回～第9回、第13回） ・人の悪意の介在しない危害にはどのようなものがあるか事例を挙げ、その防止方法について説明することができる。（第2回、第4回） ・様々な危害を取り上げて、その危害を防止する取組がセキュリティなのかセーフティなのかについて論拠をあげて説明できる。（第2回、第4回） ■ セキュリティを脅かす脅威の特性について理解したうえでその特性を踏まえた様々なセキュリティの取組について基礎的な知識を修得することができる。 ・セキュリティを脅かす脅威はその特性によりセーフティの取組では防ぐことができないことについて説明することができる。（第2回、第4回） ・具体的な防犯対策の事例を取りあげて、セキュリティの取組の在り方について学び、それを説明することができる。（第4回～第9回、第13回） ・セキュリティ産業としての警備業の発展の歴史、現状、社会の安全に対する役割について説明することができる。（第10回、第11回） ■ 社会の様々な分野におけるセキュリティ上の課題を分析・抽出して、今後のセキュリティの在り方を具体的に考察することができるようになる。 ・様々な各分野におけるセキュリティの取組について具体的に学んだうえで、それぞれの取組における課題を発見し効果的な取組を考察することができる。（第3回、第4回～第9回、第12回、第13回） ・セキュリティ対策の前提となる脆弱性評価の例について学び、その効果的な活用方法について考察することができる。（第12回） ・効果的なセキュリティの取組における「セキュリティ文化」の意義と重要性を理解したうえで、その効果的な醸成について考察することができる。（第14回）
成績評価方法	次の方法により成績を評価しますが、いずれの方法についてもポータル等を利用しての提出を求める場合があります。 ■レポート1回（50%） （評価の観点）セーフティとセキュリティの違い、具体的な脅威の特定の方法、脅威に応じたセキュリティ対策の策定、テクノロジーの活用と法的な課題、などに関する概念や基礎知識の修得の程度、それらを踏まえて、具体的な事案を想定した問題の解決を導き出せるかを評価します。 （フィードバックの方法）授業の時間中にレポートの着眼点について解説します。 ■小テスト3回（30%） （評価の観点）セキュリティの概念が理解できているか、基礎的な専門知識が修得できているか、習得した基礎的な専門知識をセキュリティに関連する課題の解決に応用できるか、などについて評価します。

	（フィードバック）授業時間中に解説します。 ■リアクションペーパー4回（20%） （評価のポイント）授業の内容や進行についての意見、セキュリティに対する意識の変化、課題解決に向けた意見などを自分の言葉で表現できているかを評価します。 （フィードバック）授業時間中に解説します。
履修条件	特にありません。
履修上の注意点	特にありません。

授業内容

回	内容
1	①授業テーマ　ガイダンス ②授業概要　授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について理解する。 ③予習（60分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分）授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。
2	①授業テーマ　セキュリティとは何か ②授業概要　具体的な事例を取り上げて、セーフティと対比してセキュリティが悪意を持った人間による殺傷、破壊、妨害などによる危害を防止する取組であることを説明できるようになる（E1、I1）。担当教員の文科省科学技術審議会専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としての実務経験を踏まえて、セキュリティとセーフティの考え方の違いなどセキュリティの重要課題について説明します。 ③予習（120分）セーフティとセキュリティの意味の違いについて、関連の文献を検索するなどして調べておく。 ④復習（120分）セーフティとセキュリティの取組の違いを確認確認して、さまざまな分野におけるセーフティとセキュリティの取組の違いを具体的に分析してメモしておく。
3	①授業テーマ　セキュリティとテクノロジー ②授業概要　セキュリティの取組において活用されている様々なテクノロジーについて、活用場所、用途、機能、運用方法などを具体的に考察し、効果的な活用を提案することができるようになる（E1）。担当教員の文科省科学技術審議会専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としての実務経験を踏まえて、セキュリティに活用されるテクノロジーの開発の意義などについて説明します。 ③予習（180分）セキュリティに活用されているテクノロジーにはどのようなものがあるか、特に危険物の発見を可能にするものについてネットなどを検索して調べておく。 ④復習（120分）様々な機能を持ったセキュリティ用のテクノロジーを組み合わせて効果的に運用する方法について考えてみる。
4	①授業テーマ　食品産業における取組 ②授業概要　食品産業における、悪意を持った者による食品への毒物や異物の混入などの危害を防止するためのフードディフェンスと呼ばれる取組について、概要を説明できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分）2007年に発生した「中国製冷凍餃子事件」について新聞記事などで詳しく調べるとともに、マルハニチロのサイトに掲載されている「フードディフェンス」https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/safe/food_defense/を閲覧して、フードディフェンスの概要について把握しておく。 ④復習（120分）食品衛生の取組とセキュリティの取組が違う理由と、具体的にどう違うのかを考えてメモしておく。
5	①授業テーマ　公共交通機関における取組 ②授業概要　航空、鉄道など公共交通機関におけるセキュリティの取組について、国内外の具体的な事例を取り上げて、その目的、取組の現状など概要を説明できるようになる（E1、G1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分）2015年に発生した「東海道新幹線放火事件」について、新聞記事などで詳しく調べ、どこに問題があったのかをメモしておく。 ④復習（120分）航空と鉄道のセキュリティがどう異なるのか、また異なる理由について授業を振り返って確認する。
6	①授業テーマ　核セキュリティ①－背景と国際的な取組 ②授業概要　テロリストなどによる核物質や放射性物質の悪用を防止するための核セキュリティの取組について、その背景や国際的な取組の概要を説明できるようになる（E1）。 ③予習（120分）令和元年度版原子力白書第4章4-2「核セキュリティ」

	（http://www.aec.go.jp/jicst/NC/about/hakusho/hakusho2020/4-2.pdf）をよく読んで、核セキュリティの概要と重要性を把握しておく。 ④復習（120分）テロリスト等による核物質や放射性物質の悪用にはどのようなものがあるか、また悪用された場合に発生しうる問題について考える。
7	①授業テーマ　核セキュリティ②－国内における取組 ②授業概要　日本国内における核セキュリティの取組の現状を概観して、その概要を理解するとともに、課題について考察することできるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分）令和元年度版原子力白書第4章4-2「核セキュリティ」（http://www.aec.go.jp/jicst/NC/about/hakusho/hakusho2020/4-2.pdf）をよく読んで日本の核セキュリティの現状を調べておく。 ④復習（120分）授業を振り返って、日本における核セキュリティ上の課題を確認するとともに、課題を解決する方法について考える。
8	①授業テーマ　大規模集客施設等における取組 ②授業概要　スポーツ競技場、劇場、ホテルなど大規模集客施設におけるセキュリティの取組の現状を概観して、その概要を理解するとともに課題について考察することができるようになる（E1）。 ③予習（120分）大規模スポーツ施設やテーマパークでは入場時にどのようなセキュリティ対策が行われているかを、それぞれのサイトやネット記事などで調べておく。 ④復習（120分）大規模集客施設におけるセキュリティの課題について考察し、課題の解決方法を考えてみる。
9	①授業テーマ　情報セキュリティ ②授業概要　インターネットやコンピュータの利用の一般化に伴って増加しつつある、不正アクセス、情報流出、サイバー攻撃などを防止し、または被害を局限化するための情報セキュリティの取組について、概要を説明することができるようになる（E1、C1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分）最近のインターネットをめぐる事件、企業などからの情報漏出事件などについて内容を調べておく。 ④復習（120分）自分が情報機器を使用するうえで、情報セキュリティ対策が不十分だった点を確認し、具体的にどのような対策をする必要があるか考えて実行してみる。
10	①授業テーマ　警備業の取組① ②授業概要　日本における警備業の発展の歴史的な展開、警備業法の制定と改正の要点、具体的な業務の内容について概観し、社会の安全に果たす警備業の役割について説明ができるようになる（E1、I1）。 ③予習（120分）一般社団法人全国警備業協会のHPに掲載されている「警備業について」をよく読んで、警備業の現状について把握しておく。 ④復習（120分）歴史的に警備業が発展してきた社会的背景を確認するとともに、今後、各社がどのような展開を考えているのか、各社のサイトなどを見て確認する。
11	①授業テーマ　警備業の取組② ②授業概要　警備業が地域安全パトロール、学校警備、刑務所管理業務など公的な業務を拡大し、社会全体の安全・安心に向けて、大きく役割が変化しつつあること、そして将来の展望について説明することができるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分）美祢社会復帰促進センターのHPを閲覧し、刑務所の運営に民間警備会社がどのように関与しているのか、官民の役割分担などについて調べておく。 ④復習（120分）授業を振り返って、警備業の役割が歴史的に大きく変化してきた背景について考えてみる。
12	①授業テーマ　脆弱性評価の手法 ②授業概要　特定の施設のセキュリティを構築するための、脆弱性評価を行うツールとのひとつとしてCARVER matrixを取り上げ、脆弱性評価の必要性と評価の実施方法について説明することができるようになる（E1、I1）。 ③予習（120分）食品分析開発センターのサイトに掲載されている「フードディフェンス（食品防御）について」（http://www.mac.or.jp/mail/090701/02.shtml）をよく読んで、そこで紹介されている脆弱性評価方法を把握しておく。 ④復習（120分）授業で紹介された脆弱性評価手法を用いて、身近な施設などの脆弱性を評価してみる。
13	①授業テーマ　大規模イベントにおけるテロ対策の取組 ②授業概要　オリンピック・パラリンピックや主要国首脳会議などの大規模イベントにおけるテロの脅威と対策の在り方、多機関連携の重要性、取り組むべき課題について概要を学び、説明できるようになる（E1、I1）。担当教員が「テロ対策東京パートナーシップ」や「海上・臨海部テロ対策協議会」の取組に協力した実務経験を踏まえて、テロ対策の現状について説明します。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。レポートの課題について提示し、その着

		眼点について解説します。 ③予習（120分）東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴ってどのようなセキュリティの取組があったのか、ニュース記事などで調べておく。 ④復習（120分）大規模イベントのセキュリティの課題は何か、その解決方法はどうあるべきかを考える。
	14	①授業テーマ　セキュリティ文化 ②授業概要　セキュリティの取組においては、関係者全員が、「脅威が実際に存在しており、セキュリティが極めて重要なものであり、日常業務において各人が果たすべき役割がある」ことを理解し行動する「セキュリティ文化」が必要であることについて説明できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分）　電力中央研究所報告書「我が国の核セキュリティ文化醸成に関する考察」https://criepi.denken.or.jp/jp/kenkikaku/report/leaflet/Y13002.pdをよく読んで、核セキュリティ文化とはなにかを把握しておく。 ④復習（120分）　三軒茶屋キャンパスのセキュリティ対策において、自分が果たすべき役割には何があるか考えてみる。
	15	①授業テーマ　まとめ ②授業概要　これまでの授業を振り返って、セキュリティの意義を再確認するとともに、様々な分野でのセキュリティの取組における課題をいくつか抽出して、それぞれ今後どのような取組が必要なのかを考察することができるようになる。 ③予習（120分）授業で扱った各分野における、セキュリティ上の課題について考え、抽出してメモしておく。 ④復習（180分）授業全体を復習したうえで、自分の将来目指す進路において、それぞれの職場ではどのようなセキュリティの取組が行われているか、犯罪、テロ、情報漏洩など具体的に想定して考えてみる。
関連科目		テロリズム論　RMGT3526S、インフラセキュリティ　RMGT3529S、サイバーセキュリティ論　RMGT3573などと密接に関連しています。
教科書		特にありません。毎回、レジュメ及び資料を配布します。
参考書・参考ＵＲＬ		今村智明『食品防御の考え方とその進め方』（日本食品衛生協会、2015年） 遠藤保雄『日本経済と警備業』（農林統計出版、2017年） 田中智仁『警備業の分析資格ー「安全安心な社会」と社会学』（明石書店、2012年） 木村直人『核セキュリティの基礎知識－国際的な不拡散体制の強化と日本のとるべき対応』（日本電気協会新聞部、2012年）
連絡先・オフィスアワー		■連絡先　開講時に告知します。
研究比率		■危機管理領域との対応 災害マネジメント0%；パブリックセキュリティ50%；グローバルセキュリティ30%；情報セキュリティ20% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学80%；法学20%

戻る